

東日本大震災被災地の海浜植物の 地域交流によるレスキュー活動

<https://hamahirugao.jimdo.com/>



ひろげる助成

2年目

実践



石狩と名取の中学生による植栽交流会

北海道での育苗成	1,500株
植栽交流会実施	3箇所
今年度計画の達成度	95%
活動の全体目標に対する達成度	90%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

被災地においての活動の主体となる町内会やNPOなどのネットワークの構築や関係づくりを継続的に行っていくこと。

■ 工夫した点

思いを色あせないものとするため、そして学び合いや心のふれあいを目的として双方の市民による交流会を併せて実施。

課題

自律的に修復しつつある砂浜や湿地、海岸林が、大規模かつ急激な盛土によって埋め立てられるなど「減災・防災と自然環境の調和」が図られていない状況であること。

目標

広域ネットワークによる育苗成や植栽活動を通して、海浜植物の重要性や多面的機能を行政や地域住民に普及啓発し、その活動を通じて防災や減災について学びあう。

活動内容と成果

海浜植物のレスキュー活動として集めていた種子より北海道内で中学生及び市民、企業の手を借りて約1,500株を育苗し、宮城県及び岩手県などに合わせて約1,300株を現地3ヶ所の適地及び近隣仮植地への移植を、双方の市民

のべ200名によって行った。新たに仙台市と気仙沼市2ヶ所の小学校での育苗・植栽活動をスタートするとともに、気仙沼の地元団体と活動を開始。札幌市で計5回、被災地から人々を招いてダイアログカフェを開催し、意見交換を行った。



仙台市内の小学生との海辺の観察会

今後の展望

震災を通じてつながった人々の絆が薄まり、防災・減災の得難い知恵を共有し育てる機会を失いかねない状況にある。広域の市民参加による活動を通して継続的な環境教育と防災教育のモデルを構築・普及を進めていく。